

5. 実現に向けて

(1) 取組体制

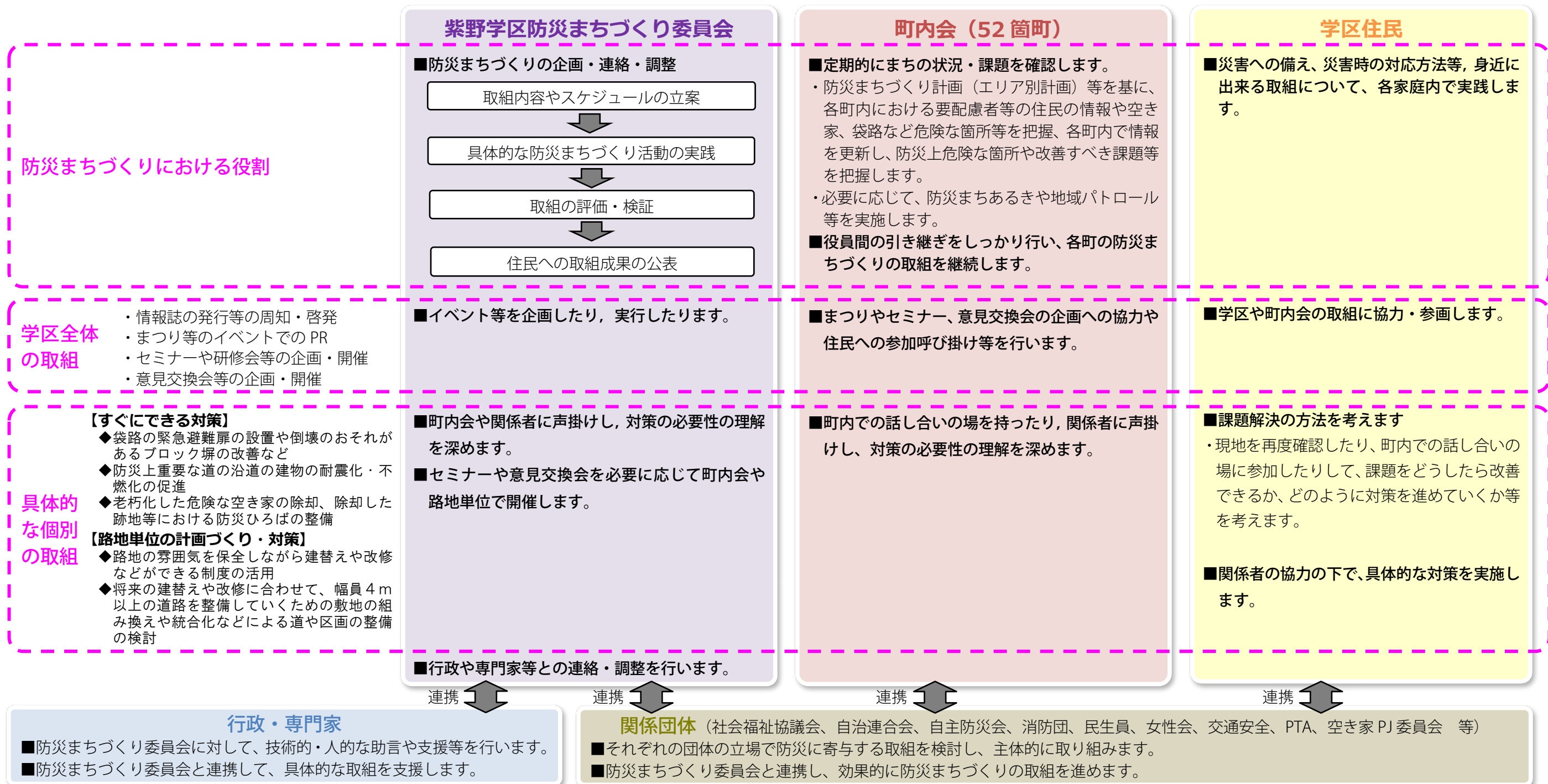
紫野学区では、平成26年度から防災まちづくりに着手し、平成27年1月から平成28年1月の1年間にわたり、自主防災会及び社会福祉協議会の主催のもと、計9回の防災まちあるきを実施し、学区内の防災上の現状及び課題について調査を進めてきました。これらを踏まえつつ、紫野学区における様々な取組との横断的な連携を図りながら進めるため、紫野学区では、自主防災会、社会福祉協議会及び空き家プロジェクト委員会を構成員とする「紫野学区防災まちづくり委員会」を設立し、これまで様々な防災まちづくりの取組を推進してきたところです。

今後の防災まちづくりの取組においても「紫野学区防災まちづくり委員会」が中心となり、関係団体や学区住民みんなが連携・協力しながら進めていきます。

(2) 取組の進め方

まちの安心・安全を高めていく取組には、「すぐにでも改善できること」と「路地や街区単位で改善すること」があり、息の長い取組が必要です。

具体的な対策を進めていくにあたっては、まちの状況や課題を確認し、住民や地権者等に参加・協力を呼び掛けながら対策方法について話し合い、継続的に取り組んでいきます。



(3) 学区全体で取り組む「防災まちづくり」の具体的なメニュー

総会（自主防災会総会、自治連総会） － 計画の共有と取組の企画・立案 －

- 防災まちづくり計画の共有
 - ・防災部長や町内会長が集まる総会の場を利用して、防災まちづくり計画の内容（目指す将来像や基本方針等）について学び、共有します。
- 防災まちづくりの取組についての意見交換
 - ・防災まちづくり委員会が提案する一年間の取組について理解するとともに、具体的な進め方などについて意見交換を行います。
- しっかりとした役員間の引き継ぎ
 - ・年度の終わりには、一年間の活動報告や取組成果について確認するとともに、次年度の役員に対してしっかりと引き継ぎを行います。



【取組体制】委員会が自主防災会や町内会と連携して実施

勉強会、意見交換会 － 町内の防災力を高める －

- 防災まちづくりの勉強会の開催
 - ・防災まちづくりの重要性や取組のポイントなどについて学ぶ機会を設け、防災に対する住民の意識を高めるとともに、防災のリーダーとなる人材を育成します。
 - ・防災まちづくりに関する制度などの周知を図り、具体的な取組を進めやすくします。
- 災害図上訓練（DIG）の実施
 - ・防災まちづくり計画（エリア別計画）を活用して、災害が起きた時の行動を地図上でシミュレーションし、災害が起こる前に備えるべきこと、災害が起きた時に取るべき行動などについて話し合います。



【取組体制】委員会が行政や消防と連携して実施

研修会 － 新しい発想や視点を取り入れる －

- 他学区や他都市の取組を学ぶ
 - ・防災まちづくりに取り組んでいる他の学区や他都市との交流を行い、防災まちづくりを進める上での課題や工夫などについて意見交換するとともに、具体的な取組について学びます。
- 最新の取組や技術を学ぶ
 - ・防災まちづくりに関する最新の取組や技術などについて学び、防災まちづくりの取組に活かします。



【取組体制】委員会が行政・消防や他学区と連携して実施

学区イベント（紫野まつり等） － 防災まちづくりの機運を高める －

- 防災まちづくりの取組のPR
 - ・多くの学区住民が集まる「紫野まつり」の場を利用して、防災まちづくりに関する情報や取組の内容などをPRします。
 - 例）・パネル展示
 - ・市の助成制度等の周知
 - ・映像コーナー
 - ・体験コーナー 等
- 住民との意見交換
 - ・身近な危険箇所や改善してほしい場所、防災まちづくり活動などについて、住民と意見交換を行ったり、相談を受けたりします。
 - 例）・出張アンケート
 - ・意見交換コーナー
 - ・無料相談コーナー 等



【取組体制】委員会が行政や専門家と連携して実施

周知・啓発など － きめ細かく取り組む －

- 耐震ローラー作戦の実施
 - ・学区内の防災の軸となる主要な道沿いや各町の集合場所から避難所への主要な避難経路沿いなどを対象に、専門家とともに木造住宅を1軒1軒訪問し、耐震化の重要性を伝えるとともに、市の助成制度の活用を働きかけます。
- 防災まちづくり News の発行
 - ・防災まちづくりに関する情報や取組について学区住民に広く周知を図るため、防災まちづくり News を発行します。



【取組体制】委員会が行政や専門家と連携して実施

まちの安全性を高める具体的な個別の取組の実践

- ・まちの安心・安全を高める取組には、「すぐにでも改善できること」と「路地や街区単位で改善すること」があり、息の長い取組が必要です。
- ・具体的な対策を進めていくにあたっては、まちの状況や課題を確認し、住民や地権者等に参加・協力を呼び掛けながら対策方法について話し合い、継続的に取り組んでいきます。

【すぐにできる対策】

- ◆袋路の緊急避難扉の設置、倒壊のおそれがあるブロック塀の改善等
- ◆防災上重要な道の沿道の建物の耐震化・不燃化の促進
- ◆老朽化した空き家の除却、除却した跡地等における防災ひろばの整備

【路地単位の計画づくり・対策】

- ◆路地の雰囲気や保全しながら建替えや改修などができる制度の活用
- ◆将来の建替えや改修に合わせて、幅員4m以上の道路を整備していくための敷地の組み換えや統合化などの整備計画の検討

【京都市の助成制度の例】



老朽化した空き家の除却



袋路の奥に緊急避難用の扉を設置



古いブロック塀を安全な塀に改善



空き地を防災ひろばに整備（まちなか commons）

(4) 主体ごとの「防災まちづくり」の取組の例

防災まちづくりの目標や方針、エリア別計画等を踏まえ、委員会、町内会、住民の皆さんが主体的に取り組むことを以下に例示します。取組にあたっては、それぞれの主体が連携・協力し合うことが重要です。

	防災まちづくり委員会で取り組むこと	町内会で取り組むこと	住民の皆さんで取り組むこと
『みち』 に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 路地の適正管理に向けた住民への働き掛け 主要な道沿いの古い木造家屋や危険なブロック塀等の改善に向けた所有者への働き掛け 袋路の2方向避難の確保等に向けた関係者への働き掛け 道や路地の拡幅に向けた勉強会や意見交換会の開催  <p>路地の防災性向上に向けた個別訪問の例（他学区）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域集合場所から避難所への避難ルートの安全点検 路地のパトロール、クリーン作戦 路地の適正管理に向けた町内での周知徹底 階段への手摺り・スロープ等の設置 道や路地のあり方や整備の方法についての話し合い 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅から地域集合場所までの避難ルートの確認、安全点検 家の前に不要な物を置かない、自転車等を整頓して置く、植木等を適切に維持管理する 壁面後退した部分を公共空間として確保する 危険なブロック塀の改善  <p>危険なブロック塀の改善の例（他学区）</p>
『いえ』 に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 建物の適正管理や耐震・防火改修に向けた住民への働き掛け（周知活動、セミナー、耐震パトロール等） 空き地の適正管理、除却に向けた所有者への働き掛け 民泊業者への町内会加入や適正管理の働き掛け  <p>耐震パトロールの例（他学区）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 空き家の把握、空き家パトロールの実施 空き家の町内での利活用の検討 民泊業者と地域との協定の締結 	<ul style="list-style-type: none"> 建物内の安全点検（家具の転倒防止等）、建物の適正管理 家の前に燃えやすい物を置かないなど建物周りの整理整頓 建物の耐震診断を受ける 建物の耐震・防火改修 住宅用火災報知機、感震ブレーカー等の設置 老朽化した空き家の除却  <p>老朽化した空き家の除却の例</p>
『まち』 に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 道や路地の拡幅、建替えをしやすいルールづくり、路地や街区の一体的改善等に向けた勉強会や意見交換会等の開催 空き地や駐車場の所有者への防災上有効な空地としての確保の働き掛け 空き地や建物除却跡地等を利用した防災ひろばの整備  <p>建物除却跡地を利用した防災ひろば整備の例（他学区）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 路地や街区単位の将来像や防災性向上のあり方についての町内での話し合い 町並みを保全しつつ建替え等しやすいルールづくり 整備された防災ひろばの維持管理  <p>道路後退距離を緩和し、町並みを保全しつつ建替えをしやすい例（他学区）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ルールに基づいた建替え等の実施
『コミュニティ』 に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 紫野まつりや防災訓練の場等を利用した情報発信 防災まちづくりに関するセミナーや勉強会、研修会等の開催 地域集合場所の周知徹底（案内看板の設置等） 路地のナンバリング 災害図上訓練（DIG）の実施 より実践的な防災訓練の実施 防災まちづくりの取組（袋路の2方向避難確保、空き家対策、防災ひろば整備等）に向けたお寺や事業所への働き掛け 緊急通報システムの導入  <p>地域集合場所への案内看板設置の例（他学区）</p>  <p>災害図上訓練（DIG）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 普段からの町内・マンション内での声掛け運動 高齢者等の災害時要配慮者世帯の把握 消火器や防火バケツの設置、適正管理 防災倉庫の整備 町内会への加入促進 地藏盆等の場を利用した防災まちづくりに関する話し合い 災害時の避難誘導や安否確認・連絡体制等のルールづくり 地域集合場所の見直し、ルールの徹底 町単位での防災訓練の実施 マンションどうしの連携、マンション独自の防災対策 お寺や事業所との良好な関係の構築 事業所との連絡方法の確認、災害時協力協定の締結 	<ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりが防災への関心を持つ 普段からのご近所への声掛け 災害時の避難や連絡方法等についての家庭内での話し合い 非常用持出袋や非常食等の備え 防災まちづくりに関するセミナーや防災訓練等への参加 防災まちづくりに関する町内の話し合いの場への参加  <p>防災まちづくりセミナー</p>  <p>防災まちづくり意見交換会</p>



平成 29 年 3 月
紫野学区防災まちづくり計画

編集・発行
紫野学区防災まちづくり委員会